

Kagiyaryokuchi 加木屋緑地

東海市

加木屋緑地の自然ごよみ

「ふるさと四季」を彩る森の木々や草原の草花を見つけ、「ふるさとの自然」に生きる様々な生きものとの出会いを求めて、春・夏・秋・冬 加木屋緑地を散策してみませんか。

春

3月下旬のウズミザクラに始まり、5種類の桜の開花と新緑のリレーが楽しめます。4月中旬から下旬には、森の中から美しい鳥の鳴き声が聞こえてくる場合があります。渡りの途中で羽を休めるオオルリ、キビタキのさえずりです。水辺にはアマガエルの合唱が響きわたります。5月下旬の深夜、真っ暗な森の中をヒメボタルが光を放ちながら飛び交う光景はとても幻想的です。

	3月	4月	5月
ボケ	ウズミザクラ	タケノコ	
ウメ	シダレザクラ	アサギマダラ北上	
ツツシ	シンダイアケボノ	アゲハチョウ	
	ソメイヨシノ		ヒメボタル
ナオホシテトウ	ヤマザクラ	モンシロチョウ	
キジ饅頭	ツバメ飛来	オオルリ	キビタキ
	ヒキガエル	アマガエル	トノサマガエル



シダレザクラとウズミザクラ



キビタキ



ヒメボタル ※光の軌跡を連続撮影合成

夏

6月、日没後の水路や草むらの上をヘイケボタルが、7月、森からの湧き水が流れる小川では、早朝にオニヤンマが羽化します。盛夏でもひんやりした空気が漂う森の中ではカブトムシやノコギリクワガタなど、様々な昆虫が樹液に集まります。池ではイシガメが気持ちよさそうに泳いだり、甲羅干しをしています。時々草原の中からキジの親子が姿を現します。

	6月	7月	8月
ヘイケボタル	オニヤンマ羽化	オニヤンマ産卵	
ニイニゼミ	アブラゼミ	クマゼミ	ツクツクボウシ
	ピロ	カブトムシ	ノコギリクワガタ
オタマジャクシ	イシガメ	メダカ	フナ
キジ親子	フクロウ	キツネ	タヌキ
	カルガモ親子	カワセミ	ノウサギ
	カイツブリ親子 (マムシ注意)	(スズメバチ注意)	



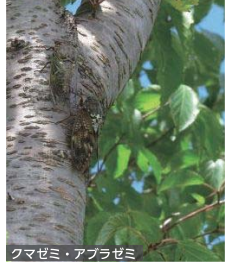
イシガメ



カブトムシ



ギンヤンマ



クマゼミ・アブラゼミ

秋

10月下旬には、フジバカマの花が咲き、アサギマダラが飛来します。多いときには30頭以上が舞い飛ぶ光景が見られます。時々羽に日付や地名がマーキングされた蝶が飛来します。これにより、夏を東北地方や中部山岳地帯の涼しい高原で過ごした蝶が、秋に南へ渡る旅の途中で加木屋緑地に飛来したことがわかります。秋の森は市民ボランティアによる「21世紀の森づくり」で植栽したシイやカシの緑色、エノキの黄色、ヤマウルシの赤色などで彩られます。草原では虫の音が聞こえてきます。クリやギンヤンマの実が落ちるのをタヌキが楽しみにしています。

	9月	10月	11月
	クリ	コナラ	アベマキ(どんぐり)
	ヒガンバナ	フジバカマ開花	
		アサギマダラ南下	
			ジョウビタキ飛来
ギンヤンマ	シオカラトンボ	アカトンボ	
トノサマバタ	オオカマキリ		
キリギリス	エンマコオロギ	オケラ	



秋の森の彩りを映す回廊奈池



アカトンボ



フジバカマの花に飛来したアサギマダラ

冬

冬の晴れた日には、展望台から白山、乗鞍岳、御嶽山、中央アルプス、恵那山、南アルプスなどの雪山を遠望できます。お正月には、初日の出を拝みに、大勢の人が集まります。木々が葉を落とし冬鳥が飛来するとバードウォッチングに最適な時期になります。鮮やかなオレンジ色と黒のコントラストが美しいジョウビタキはチベットやバイカル湖付近から飛来し、桜が咲く前には飛び去ってしまいます。サザンカやボケの花にはメジロが蜜を吸いに集まります。ウグイスの鳴き声が聞こえたら春はもうすぐです。

	12月	1月	2月
コガラ	ホオジロ	モズ	メジロ
雪山遠望	●初日の出	カブトムシ(幼虫で越冬)	
マガモ	コガラ	コクワガタ(成虫で越冬)	



ジョウビタキ



初日の出



雪山の遠望 (乗鞍岳と御嶽山)

アクセス

公共交通機関で
◎名鉄南加木屋駅から西に徒歩約5分

西知多総合病院東
加木屋保健所
加木屋小学校
西知多総合病院
回真奈池
東海南南高等学校
加木屋中学校
名鉄南加木屋駅
名鉄南加木屋駅
名鉄南加木屋駅
名鉄南加木屋駅

東海市
愛知県

駐車場

- 第一駐車場 10台
- 第二駐車場 10台
- 南駐車場 19台
- 臨時駐車場 25台

加木屋緑地での注意事項

- 動植物を傷つけたり、捕獲・持ち帰ることは禁止です。
- バーベキュー・焚火・花火など、火気厳禁です。
- 他所からの動植物を放したり、移植することは禁止です。(希少種がいます)
- ゴミ、ペットのフンはすべてお持ち帰りください。
- 自転車・バイク・車の乗り入れは禁止です。

お問い合わせ

東海市役所 (花と緑の推進課)
所在地 / 〒476-8601
愛知県東海市中央町一丁目1番地
電話番号 / 052-603-2211(代) 0562-33-1111(代)
E-mail/hanamidori@city.tokai.lg.jp

加木屋緑地について

【概要】東海市内最高峰の御雉子山(標高59.2m)を中心とした森林や草地が広がる緑いっぱいの丘と、図賀奈池や湿地、水路などの水辺が一体となった里山の自然環境とふれあえる、面積13.9haの緑地です。ふるさとの身近な生きものが多く生息しています。

【御雉子山】図賀奈池周辺の地名は雉子野といい、昔からキジを始めとした多くの野鳥が生息していました。尾張二代の藩主徳川光友公(1625年～1700年)も、横須賀御殿へ来た時に、しばしばここで鷹狩りをしたので、近くの山に御の敬称をつけ、御雉子山という名称になりました。

加木屋緑地 クロスカントリーコース

緑の中、景色を楽しみながら健康づくりやトレーニングができます。自然地形を利用したコースで、木チップを敷いた足に優しい路面です。



往路 ← 復路 →



クロスカントリーコース 起点・終点
西知多総合病院、加木屋小学校、第2駐車場、第1駐車場

水辺の森コース 起点・終点
芝生広場、図賀奈池

みはらしの森 周囲コース 1週 500m
長さ100m、標高差15mの坂道を活用したインターバルトレーニングなどに適しています。※左回りの一方通行です。

成長の森 周囲コース 1週 500m
春にはサクラが咲き誇る、里山の風景を楽しみながら走ることが出来ます。※左回りの一方通行です。

散策の森 周囲コース 1週 400m
御雉子山からの景色を楽しみながら、気持ちよく歩くことができます。晴れた日には御嶽山まで見渡せます。※右回りの一方通行

21世紀の森づくり
展望台

ふるさとの自然再生
東海南高校

水辺の森ゾーン
図賀奈池の周囲に茂る森には、水辺に近いこともあり、多くの野鳥や昆虫が訪れます。池に張りだした枝や池のふちを観察してみましょう。

散策の森ゾーン
御雉子山の東斜面を散策することができます。

みはらしの森ゾーン
展望台のある見晴らしの良い場所です。東斜面は21世紀の森づくりにより郷土の森を育てています。

成長の森ゾーン
里山の自然を保全しながら郷土の森を育てています。20年、30年先を見据え、郷土の自然を未来につなげていきます。

0 50 100 200m

【ヒメボタルとヘイケボタルの生態】

ヒメボタル
森
地上の貝類
メス、オス
産卵(4~7月頃)、幼虫(1~2年で成虫)

ヘイケボタル
湿地
水中の貝類
メス、オス
産卵、幼虫、チナギ

	ヒメボタル(姫螢)	ヘイケボタル(平家螢)
幼虫	陸上生活(森林、草地) 地上の貝類(キセルガイ、オカチョウジガイ)などを食べて成長	水中生活(田んぼ、水路) 水中の貝類(タニシ、モノアラガイ、カワニナ)などを食べて成長
サナギ	土中でまゆをつくる	土中でまゆをつくる
成虫	時期：5月中旬から6月上旬 時間：21時頃から発光 23時頃から飛翔 体長：6~9mm程度	時期：6月上旬から7月上旬 時間：日没後から発光 20時頃から飛翔 体長：8~11mm程度
飛翔	とてもゆっくり、じくじくに(ふわっ ふわっ)	ややはやく、直線的に(すーっ すーっ)
発光	黄金色の強い光 0.8~1秒間隔で点滅 フラッシュ光のように鋭く(チカッ チカッ チカッ)	緑がかった黄色の淡い光 1~1.5秒間隔で明滅 ゆるゆるにはかなく(チカーッ チカーッ)

【オニヤンマの生態】

オニヤンマ
ヤゴ 3~5年
成虫 6~10月
水中

幼虫(ヤゴ)	林の縁(ふち)で冷たい水が流れる小川の浅い水底の泥や砂の中に潜(ひそ)み、3~5年かけて体長5cmほどに成長する。
羽化	6月から7月頃、深夜に羽化し、体長9~11cm程度の日本最大のトンボとなって、早朝に飛び立つ。
成虫	成熟すると、大きな複眼は暗い灰色から鮮やかなエメラルドグリーンに変化し、虹色に輝く。朝夕は小川や林の縁をゆうゆうと飛翔し、昼は枝先にぶら下がって羽休めをする。

【アサギマダラの生態】

アサギマダラ
春~夏の移動 東海中 12月
冬 約2000km
秋~冬の移動 約1000km
11月

成虫	透けるような浅葱(あざぎ)色と栗色の斑(まだら)紋様のはねを持ち、ふわふわと優雅に飛び美しいチョウ。羽を広げた大きさは10cmほど。
渡り	暑さ寒さに弱く、春には涼しいところを目指して本州や北海道まで北上し、秋には暖かいところを目指して南西諸島まで南下する。東海市で10月にマーキングされ、11月に1,000km離れた鹿児島県喜界島で再捕獲された例もある。
吸蜜	アサギマダラは、秋の七草のひとつであるフジバカマの花に強く誘引され、集まって吸蜜する習性がある。

ふるさとの自然再生の取り組み

ホタル、オニヤンマ、アサギマダラなどの身近な生きものとふれあえる「ふるさとの自然」を保全・再生し、市民の「たから」として今後50年先の世代に引き継いでいくことを目指しています。



下池、小川、フジバカマの花畑、中池、ヘイケボタルの水路、あずまや、上池、ヒメボタルの森、芝生広場、ウズミザクラ

身近な生きもの観察会
フジバカマとアサギマダラ(10月)
ウォーキング会
東海南高校の桜(ソメイヨシノ)
フジバカマの植栽
ヘイケボタル幼虫の放流
ソメイヨシノとウズミザクラ(4月)
オニヤンマの幼虫
さくら記念植樹
オニヤンマ(7月)